

2021 年度 学術交流支援資金（外国語電子教材作成支援）
アラビア語ベーシック 1・2、インテンシブ 1・3
成果報告書

研究代表者：総合政策学部専任講師(有期) 山本薫

成果物：<http://keio.arabi.school/>

ID: test-student1

Password: Arabic-test2022

1. プロジェクトの概要

アラビア語研究室では今回、アラビア語学習プラットフォームの開発を行った。学習管理システムとして Moodle を採用し、これまでに研究室で開発してきたオリジナル教科書に対応したスキットビデオや音声教材と、ドリル形式のオンライン教材を組み合わせ Moodle 上で一元管理し、自動採点機能やタスクの進捗度を測る機能を活用することで、教室での一斉授業とオンラインでの自律的な学習をシームレスにつなげた学習モデルの確立を目指した。

2. 開発の背景

海外の非ネイティブ向けアラビア語教育は近年、教授法も教材も大きく発展し、双方向的なコミュニケーションを重視した様々な視聴覚教材やインターネット上の学習コンテンツが登場しつつある。しかし日本の多くの大学においては、文法知識と読解を重視したアラビア語教育がまだまだ主流であり、学生のニーズと齟齬が生じていることが先行研究で指摘されている（鷲見朗子・鷲見克典「日本の大学生におけるアラビア語学習の志向」『日本中東学会年報』31(2), 115-150,2015）。

それに対して SFC アラビア語研究室はコミュニケーションを重視し、実際の生活場面における会話を想定したビデオやアニメーションなど、様々な電子教材を開発してきた。また、昨年度からのコロナ禍によって多くの授業がオンラインに移行する中、オンラインでは指導が難しいアラビア文字の綴り方を動画で学べるコンテンツを開発し、本学以外のアラビア語教育の現場においても大いに活用されている。さらに昨年度は、楽しみながらアラビア語の語彙を増やすことができる複数のゲームも開発した。

現在、これらの電子教材は、SFC アラビア語研究室ホームページ上の学習コーナーで公開しており（https://arabic.sfc.keio.ac.jp/?page_id=84）、複数の授業の中で利用されている。しかし、日常生活においてアラビア語に触れる機会が非常に限られている日本人学習者にとって、教室での学びだけでは、実用的なコミュニケーション能力の習得には質量共に不十

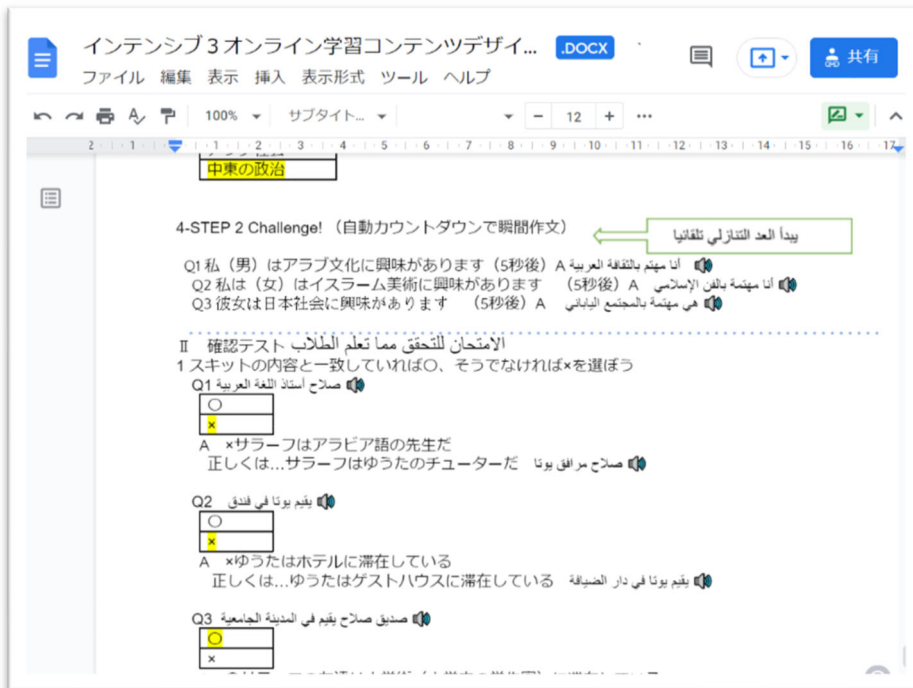
分である。そこで今年度は、教室で学んだ内容を、電子教材を使って自律的に練習・確認することを可能にする学習プラットフォームの開発を目指すこととした。

3. 開発の過程

アラビア語研究室ではこれまでに、初学者向けの『マドハル』とその次の段階の『イクラア』という二つのオリジナル教科書を作成し、使用してきた。そのうち『イクラア』は11章から構成され、各章に対応したスキットビデオも存在する。また、各章の内容や重要表現を身に着けるための練習問題をまとめたワークブックも準備されており、授業ではまず、スキットビデオを視聴して、テキストと対応させながら語彙や文法項目を学び、次にワークブックを使って各種の練習問題に取り組むことで、表現を身に着けていく。しかし、語彙や表現の習得には繰り返し練習が欠かせないため、授業時間内だけでは十分に身につかないという問題があった。

そこで今回はまず、これまでのワークブックの内容を電子教材に移し替えることで、オンラインでの繰り返し練習を可能にしようと考え、アラビア語ネイティブ教員にその教材の設計を依頼した。ところが実際にできた問題は、電子教材としての利点を生かした形式になっていなかった。それまでのワークブックは「読み書き」中心であり、音声や画像を使ったインタラクティブで学習意欲を刺激するような、ドリル型やゲーム型のコンテンツに移し替えることが難しいということが、この時点で判明したのである。また、ネイティブ教員だけでは日本人学習者のニーズの把握が難しいということも分かったため、日本人メンバーを中心に、既存のワークブックとは全く異なる発想で、一から練習問題や小テストをデザインし直すことになった。

The image shows a Microsoft Word document titled "インテンシブ3 オンライン学習コンテンツデザイ... .DOCX". The document content is in Arabic and includes a section "I 練習問題 التدريبات" and a sub-section "1- STEP 1 次の日本語に対応するアラビア語を選ぼう". There are two questions, Q1 and Q2, each with a list of Arabic options and a correct answer. A green callout box on the right contains Japanese text: "目的 1.練習パート:単語や表現を繰り返し開けて語彙が定着する 2.小テストパート:各章の内容の確認テスト *自動採点" and "الأسئلة متعددة الخيارات". A green arrow points from the callout box to the question options.



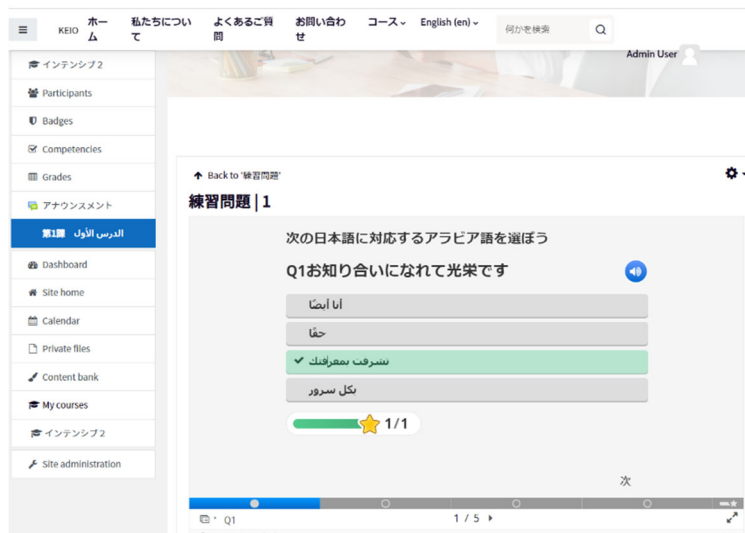
こうしてできたデザインを、Moodleの環境設定とコンテンツ作成を依頼したSMA Group社が、Moodleのプラグインに部分的なプログラミングを加えて、下記のように実装した。



学習者はまず、学習する課のスキットビデオを字幕付きで繰り返し視聴する。



次に、その課の新出単語と動詞の活用を、フラッシュカード形式で繰り返し学習する。この部分は Quizlet というオンライン学習ツールを埋め込んだ。



次に、その課の重要表現を、アラビア語音声聞きながら練習できるクイズ形式の練習問題と、確認問題に取り組む。

そして各課の最後に、自動採点できる確認テストに取り組む。



現在の形に至るまでに、SMA Group に何度も修正を依頼せねばならず、なかなかこちらの思い描く形にならなかった。その要因として、一つにはアラビア文字の処理の難しさがあ
る。アラビア文字は右から左に綴るため、その逆に綴る日本語と組み合わせると、デザイン
面で不具合が起きやすい。また、多くのアプリケーションでアラビア文字は、ほかの文字種
に比べてフォントサイズが小さく表示されるという欠点があり、プログラミングで細かく
調整する必要があった。

もう一つの要因は、Moodle のプラグインの能力的な制約である。当初、我々は Moodle
の様々なプラグインを用いて、成果物として公開している以外にも多くの電子教材を試作
した。しかし、動作が非常に重かったり、音声や図像との組み合わせが難しかったりと、な
かなかこちらが思い描く教材を実現できなかった。そこで次に、Moodle のプラグインでは
なく、SCORM 形式という、e ラーニングの国際標準規格のコンテンツを作成できるオーサ
リングツールを検討してみることにした。SCORM 形式でコンテンツを作成しておけば、あ
とからどのような LMS にも搭載することができて利便性が高い。実際に、Adobe Captivate
や iSpring Suite というツールを使っていくつか試作してみたところ、比較的簡単に、音声
や動画を使った魅力的な電子教材が作れることがわかった。

4. 今後の課題と展望

今回のプロジェクトは様々な困難に直面し、予定していた成果を期限内に実現するこ
ができなかった。これまで教室で使用してきたワークブックを電子教材化しただけでは、効
果的で魅力的なコンテンツにはならないということ、試作してみて実感し、そこからあら
ためて電子教材のデザインを練り直すことになった。また、Moodle のプラグインの限界も、
実際に教材を試作してみて初めて実感できたことである。しかし最終的には、オーサリ
ングツールを用いて SCORM 形式のコンテンツを作るという方針に至ることができた。そこ
で、Moodle のプラグインを主に使った第 1 課はそのままだ、第 2 課を SCORM 方式で構築す
ることで、両者を比較検討できるようにするところまで準備をしていた。コンテンツのデザ
インはすでに完成しており、SCORM ファイルもいくつかは完成しているのだが、その担当
者が数日前にコロナウイルスに感染してしまい、本報告書の提出期限までに予定していた
作業を全て終えることができなくなってしまった。

現時点では、第 1 課の確認テストの部分に SCORM が使われている。



動画、音声、イラストが組み合わされ、操作性もデザイン性も高いコンテンツとなっている。



また、第2課用に SCORM 形式で作った問題は http://web.sfc.keio.ac.jp/~saori/ElearningArabic/iqraa/lesson01/lesson02_ShunkanArabic/ に仮置きしてある。Moodle のプラグインで作成した第1課の同形式の問題と比べると、デザインも操作性も格段に優れていることがわかる。

プロジェクトの今後については、今年度に得た経験と知見を活かし、オーサリングツールを用いて来年度も開発を継続する。今回は試作のために無料体験版を利用したが、来年度は大学で契約している Adobe Captivate、あるいは iSpring Suite を有料契約で使用し、SCORM 形式で残る課のコンテンツを完成させたい。また、学生たちから使用レビューを集め、改善を重ねながら早期の実用化を目指したい。

謝辞

学術交流支援資金の助成により、アラビア語学習プラットフォームの開発を進めることができました。深く感謝申し上げます。